

「地元産材を生かしたまちづくり」

— 歩いて感じるまち～木曾福島をめざして —

木曾町役場木曾福島支所・総務振興課 係長 ○ ふるはたこうじ 古畑浩二
〃 〃 主任 なかにかずひろ 中谷和博
木曾森林管理署木曾福島森林事務所 首席森林官 きうちのぶお 木内伸夫

要旨

吸い込まれるような深い緑、清冽な水が岩を飲み流れる溪谷の町木曾町は、豊かな自然に恵まれた「水と緑」の町だけでなく、古い歴史と伝統に彩られた文化の町でもあります。

800年昔、木曾義仲はこの地で育ち、後に京都に向かって、征夷大將軍となり、歴史にその足跡を刻みました。また、江戸時代になってからは、中山道の要衝の町として、日本4大関所の一つが置かれた歴史の町であり、街道文化の花開いた山間の町でもあります。

近年は都会の旅人が、ゆったりと一息つく、やすらぎのふるさとをめざして、地元産材を生かした町づくりに取り組んでいます。

はじめに

全国的に中心市街地の活性化が叫ばれている中、当町も平成13年度に「中心市街地活性化計画」を策定しました。住民と行政とが協働してまちづくりを進めるうえで、貴重な資源である自然、歴史、文化を見つめ直し、それを活かした整備を図り、住民や観光客が歩いて楽しめるまちづくりを展開しています。

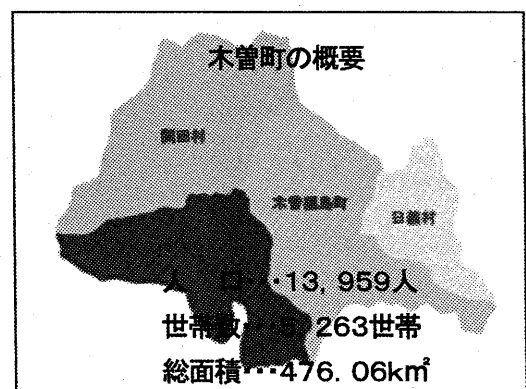
1 木曾町の概要

『日本のふるさと・豊かな水と緑あふるる故郷、木曾』を大きな将来像に掲げ、平成17年11月1日、木曾郡木曾福島町、同郡日義村、同郡開田村及び同郡三岳村を廃し、その区域をもって木曾町が誕生しました。

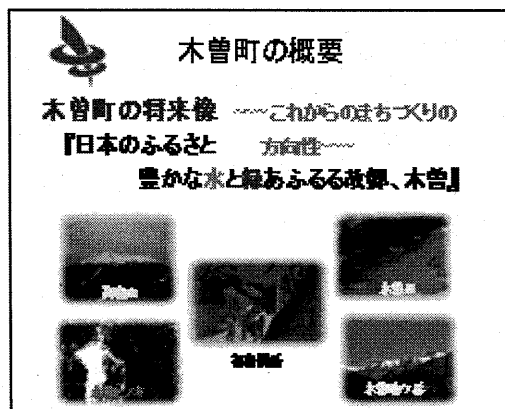
人口は平成18年1月1日現在で13,959人、世帯数5,263世帯で県下86市町村中26番目ですが、依然過疎が進行している町です。

町域は、東西31.7km、南北26.2kmで、総面積476.06km²を有し、全国の1,041ある町のうち197番目であり、岩手県の盛岡市と同等の広さになります。

木曾町は、木曾ヒノキに代表される森林資源や中京圏の水源である木曾川などが流れる豊かな自



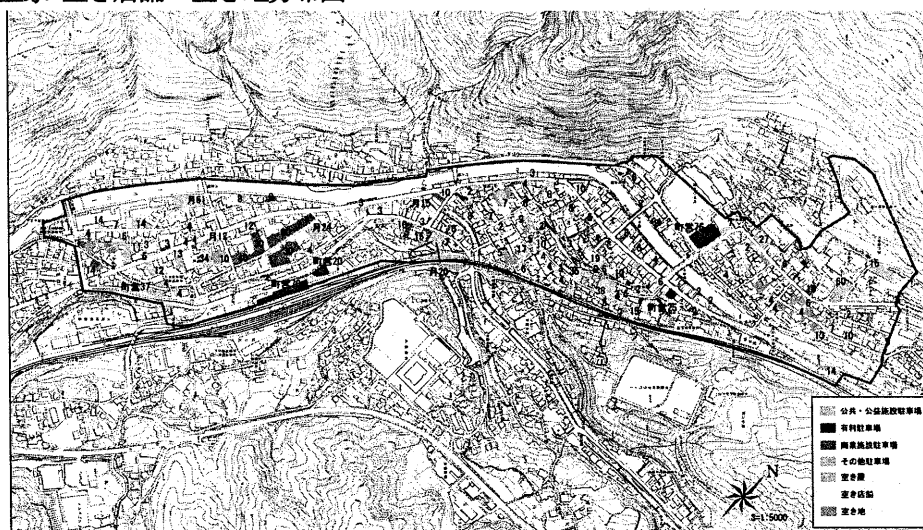
然に恵まれており、また、木曾御嶽山をはじめとする山岳信仰や日本4大関所のひとつが置かれた、交通の要衝中山道の宿場町として、古くから多くの人々が往来する地域でもあり、これらの貴重な資源が今でも数多く残っている町です。



2 中心市街地活性化の必要性

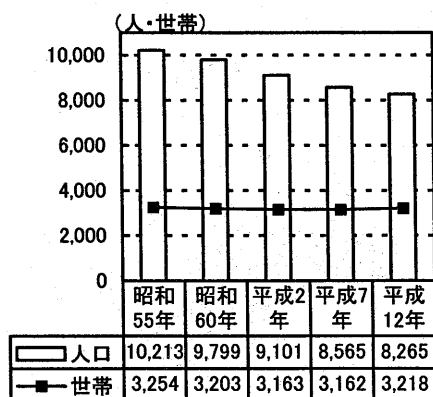
旧木曾福島町の中心市街地は、木曾地域の行政・経済・教育・文化の中心として発展してきましたが、車社会の進展や生活スタイルの変化、また松本・塩尻市等の生活圏への拡大に影響を受け、人々の流れが著しく変わってきました。これにより過疎化や少子高齢化、中心市街地における空家・空き店舗の増加や空洞化が深刻化し、中心商店街は年々活力が低下している状況でした。

空家・空き店舗・空き地分布図



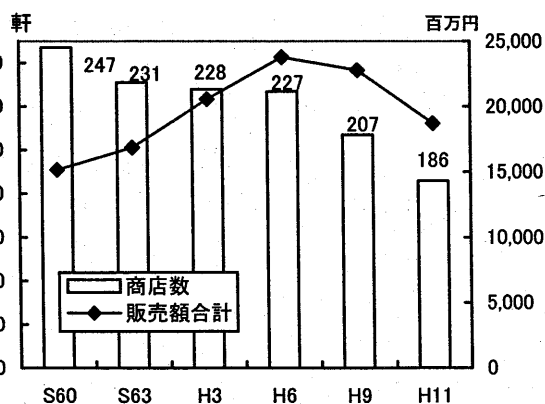
※空き家・空き店舗・空き地は国勢調査により推定されたものである
駐車場の数値上の数字は、駐車可能な普通乗用車の台数である

人口世帯の推移



図：国勢調査より

商業販売額・商店数の推移

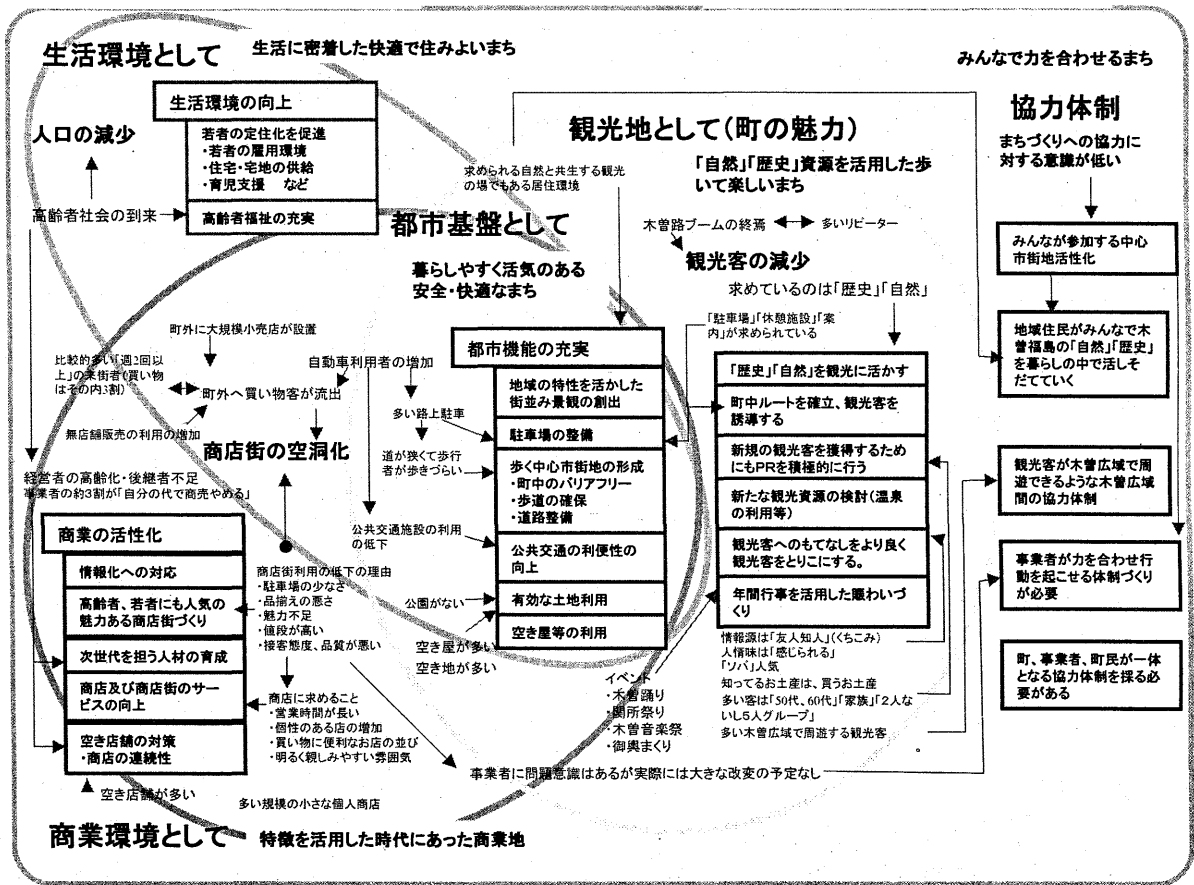


図：商業統計より

このような背景化の中、平成10年に国が中心市街地活性化法を策定しました。当町においても、法の理念に基づき、図のフローチャートのように、様々な問題点や課題を拾い出し、町民・事業者・行政が協働しながら中心市街地にどのようにして人を集め、賑わいを生み出すことが出来るかを検討し、市街地の整備と商業等の活性化の連携を図り、住み良く人々のふれあいがあり、かつ来訪者に注目されるまちづくりを進めるため、平成13年度に中心市街地の再生を図る目的で計画を策定しました。

問題点・活用品・課題のフロー

太枠：課題 枠無し：問題点・活用品



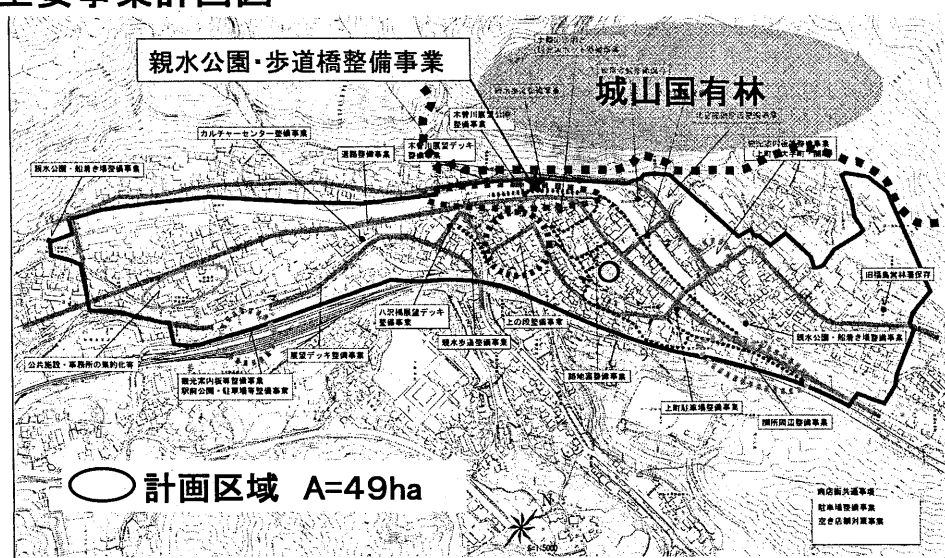
3 事業概要

(1) 中心市街地活性化計画の概要

平成13年度に策定された「中心市街地活性化計画」は、町の中心部およそ49ha(図の黒い縁取り部分)が計画区域になっています。既存の施設や自然、歴史、商業等総合的に考え検討した事業のひとつに「木曽川親水公園・行人橋歩道橋架設事業」が中心部の本町地区に計画されました。この事業は、空家空き店舗が連なる当地区の一角に風穴を開け、街中から木曽川が望め、かつその水に触れることのできる親水歩道と、対岸の城山国有林の四季折々の景色を楽

しみながら、旅の疲れを癒すことのできる「足湯」を組み合わせた親水公園、それから「行人橋」を史実に基づき、元々あったこの場所に架設するという大きな計画で、親水公園は平成15年度に、行人橋歩道橋は平成16年度の繰越事業で平成17年の夏に完成しました。計画当初、橋がまちづくりのランドマーク的な位置付けであり、多額な費用がかかるため、慎重に計画を進めていましたが、町内外の多くの有志の皆さんより、まちづくりに対する寄付金が町に寄せられたため、一部事業費に当てて事業の具現化となりました。

中心市街地活性化計画の概要 主要事業計画図



(2) 行人橋について

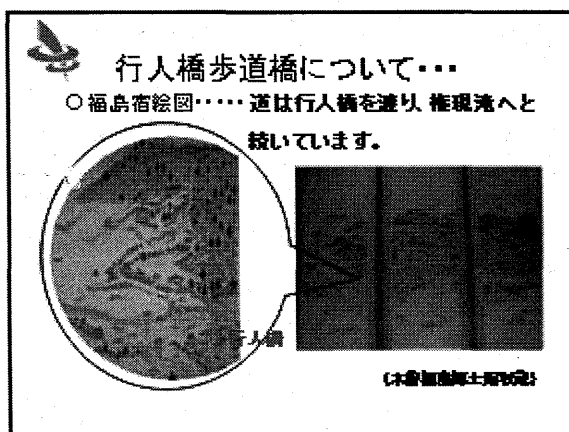


写真1

行人橋は戦国時代には既に架設され、古橋と呼ばれていたそうです。写真1は、福島宿絵図ですが、行人橋をはっきりと描かれています。行人橋は、御嶽登山道入口であり、対岸の城山(国有林)は聖域とされ、山中のある権現滝は、御嶽行者が身を清めた場所と伝えられています。写真2は、明治時代の行人橋で、今回の架設位置より低い場所に架かっています。写真3は、昭和10年に本町地区の下流側にある、現在の行人橋が架設された際に移設された標柱です。この標柱は、今回架設された行人橋歩道橋の左岸側に設置されました。

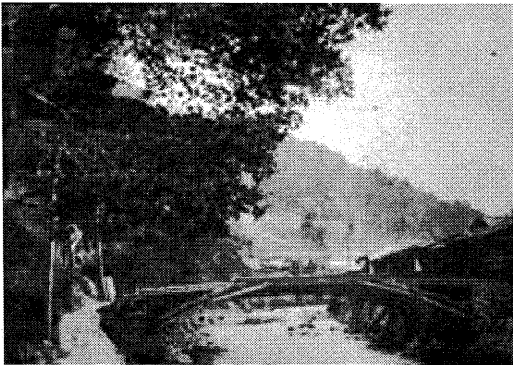


写真2 明治時代の行人橋

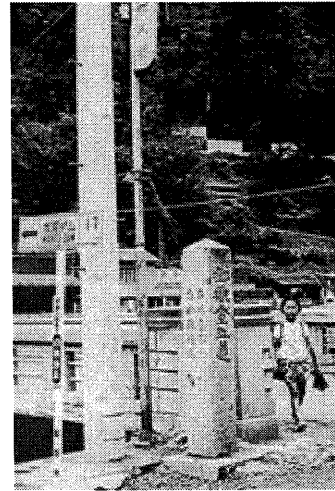
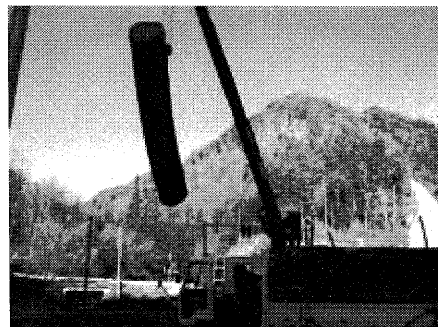


写真3

昭和10年架設時に移設された標柱→

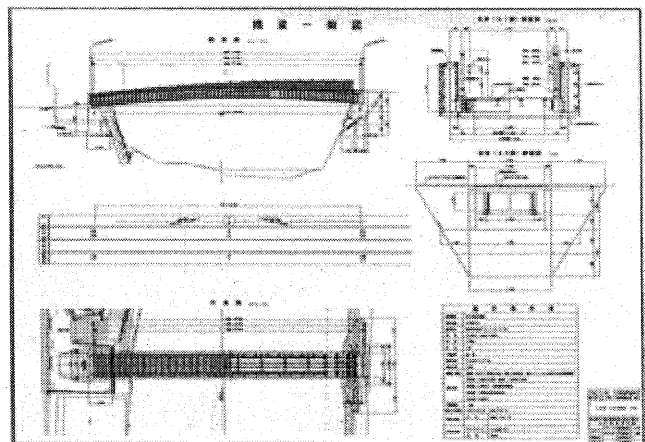
(3) 「行人橋(歩道橋)」の概要

行人橋は元々は木橋であったため、当初躯体も木で考えましたが、構造上の関係や安全率を考慮して、鋼桁を使いそれを木で覆う形状としました。木材はすべて地元産の木材を使用し、森林管理署の協力を得て城山国有林からケヤキやスギの転倒木、枯損木の売り払いを受け、橋梁の材料としました。

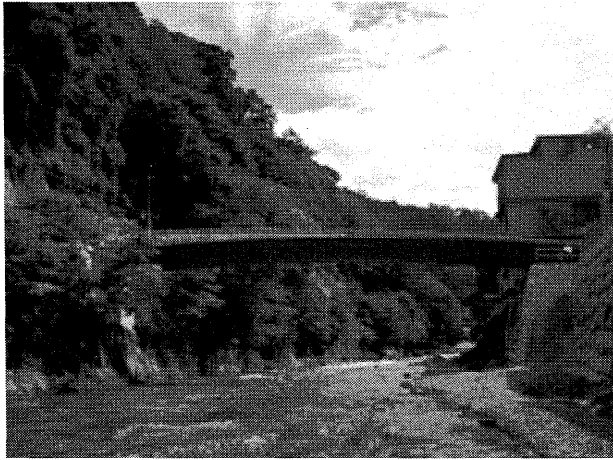


城山国有林より集材、玉切りにして製材所へ搬出しました。(町民野球場にて)

左の図は、今回架設した、行人橋歩道橋の設計平面図です。工事内容としては、橋台下部工・・・一式(重力式橋台)、上部工は、鋼単純中路式鉄桁橋で、橋長34.8m、有効幅員2.0mの歩道橋となりますが、右岸と左岸の高さが違うため、橋の上路(桁の上)から下路(桁の下)へ歩道部分が下がっている少し形状の変わった橋になっています。

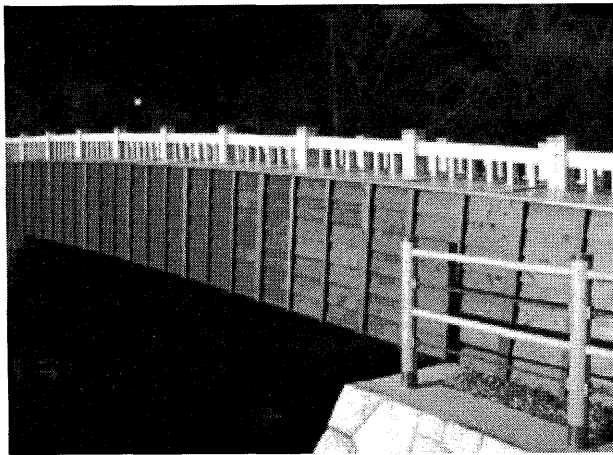


設計平面図

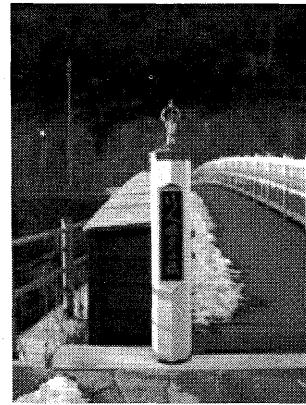


完成した行人橋歩道橋

左の写真は、完成した行人橋歩道橋の全景になります。高欄は木曽ヒノキで耐久性を上げるためにプラスチックコーティング加工したものを使用し、桁を覆っている鎧壁は、森林管理署から買い受けたサワラに防虫処理を施して使用しています。親柱は、御嶽行者が使用する「金剛杖」をモチーフにして城山国有林より出材したケヤキを使用しています。歩行面と橋の下側は、耐久性を考慮し合成木材を使用しています。橋に使用した木材の総使用量は約 13 m³になります。



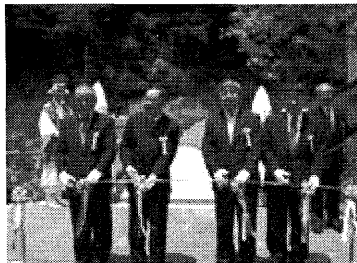
高欄は木曽ヒノキ、鎧壁はサワラを使用



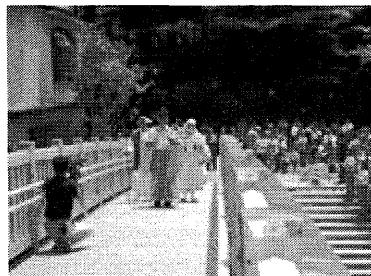
ケヤキの親柱

総事業費は、約 89,000 千円で、住民等から寄せられた約 10,000 千円の寄付金を一部事業費に当てています。

当時この場所にあった「御嶽登山道」の標柱も元の場所に戻り、往年の雰囲気をかもし出しています。平成 17 年 7 月 14 日に竣工式を迎え、関前中部森林管理局長さんをはじめ、関係者によるテープカット、及び御嶽行者の皆さんによる渡り初めが行われました。



竣工式テープカット



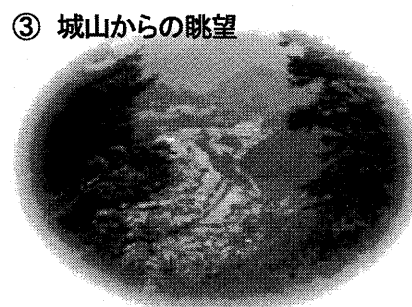
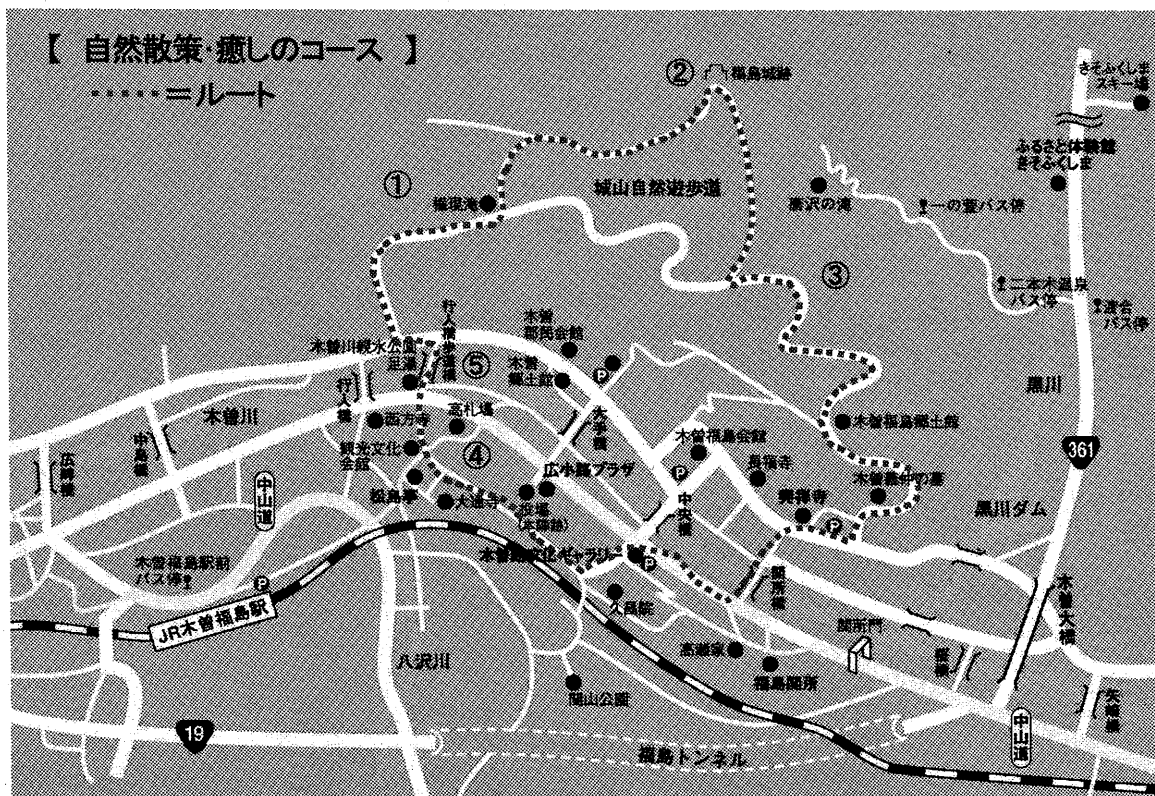
渡り初め



御嶽登山道標柱

4 事業の結果について考察

完成した「行人橋(歩道橋)」により、町の中心部から城山自然遊歩道入口へのアクセスが良くなり、ひとつの観光ルートが完成しました。遊歩道は、森林管理署及び木曾森林環境保全ふれあいセンターの協力を得て、城山史跡の森クラブや町商工会等により整備をしています。



橋を渡り木曾川のせせらぎに耳を傾け、静かな美林で森林浴を楽しみながら、御嶽行者が修行した木曾義仲ゆかりの権現滝、戦国時代の山城跡をめぐり、谷あいにとたつむ旧木曾福島町の眺めと木曾駒ヶ岳を望みながら、再び旧中山道の面影が残る上の段を經由して行人橋歩道橋がある木曾川親水公園に戻れば、疲れた足を足湯で癒す「自然散策・癒しのコース」となりました。

城山国有林は、木曾福島駅からとても近く木曾の自然を満喫できる、本格的なハイキングコースです。町民はもちろん、今後、観光客の皆さんの活用が強く期待できます。

おわりに



竈炙(かまあぶり)ビストロ松島亭

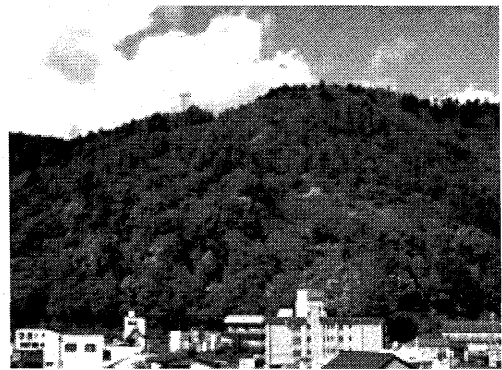
手前みそではありますが、昨年9月にオープンした「竈炙(かまあぶり)ビストロ松島亭」を少し紹介させていただきます。これは、旧中山道の上の段に残る旧家を、町が寄付していただき、その建物をまちづくり会社の榊まちづくり木曾福島が古民家再生をし、イタリアンレストランとしていたるものです。建物の内装等についても平成16年度に売り払いを受けた木材を多く使用しております。料理もとてもおいしいので、是非お出かけください。

最後になりましたが、城山国有林は、当町の貴重な背景林であり、癒しの源であると感じています。今後も森林管理署及び木曾森林環境保全ふれあいセンターの協力を得ながら憩いの森として、城山史跡の森クラブ等のNPO団体を立ち上げ、引き続き整備を進める予定です。

この行人橋歩道橋が、中心市街地と城山国有林とを結ぶ架け橋となるように、木曾川の清らかな水と、城山国有林の森林、この町に住む人たち、また、訪れる人たちの交流を大切にしながら、地元素材を生かした「歩いて感じるまち・木曾福島」を目指し、まちづくりを推進したいと思います。



歩いて感じるまち～木曾福島
城山遊歩道



役場上より城山を望む